

【写真リポート】

バンクーバー「Sakura Days ジャパンフェア」

2日間で8,000人が訪れ、桜祭りを楽しむ



今年もバンクーバーの祭りとして恒例となった「Sakura Days ジャパンフェア」(SDJF)が4月5日(土)、6日(日)の2日間にわたり、バンクーバー市内のバンデューセン・ガーデンで大々的に開催された。

会場では、日本のお茶、生チョコ、真珠、小物、ベーキング、ゆかた、写真カード、せっけん、アクセサリ、お面などの販売ブースや総領事館による日本紹介、起業団体、日系団体展示ブースなどを設置。チェリーステージではアニメコスプレ、書道演出、琴演奏、太鼓演奏、少林寺拳法、日本舞踊、各種ダンス、コーラス、俳句、詩吟、ファッションショー、獅子舞い、カラオケなど多くのエンターテインメントが繰り広げられた。

このほか、生け花、茶道、浴衣(ゆかた)着付け、折り紙、紙芝居、手芸、指圧、酒テイスティング、盆栽の展示やワークショップ、などなど。

フードブースでは、たこ焼き、焼き鳥、お好み焼き、ラーメン、焼きそば、カレー、おでん、おしるこ、あぶり寿司、日本式ホットドッグ、どら焼き、菓子スイーツなどのブースが広い庭園内各所に配置された。

今年は初日にかなり雨が降ったが、それでも2,000人ほどの入場者があった。2日目は好天に恵まれ、約6,000人が訪れた。切符売場の人の列は建物のサイドから駐車場を抜け、庭園入り口から道路まで長蛇の列となり、駐車場不足はもとより、道路の渋滞まで引き起こし、今後の課題も深刻となった。

今回も「Sakura Days ジャパンフェア」は、日本のビジネス、伝統文化、食文化、そして花見などと、日本のイメージをいっぱい盛り込んだイベントとして大成功に終わった。



▲バンクーバー市バンデューセン・ガーデンのしだれ桜



▲しだれ桜を觀賞する人たち



▲オープニングセレモニーの鏡割り。(左から)塚本隆志ジャパンフェア実行委員長、岡田誠司バンクーバー総領事、リンダ・プール・バンクーバー桜祭り実行委員長、バンクーバー市公園課職員



▲なんと言っても祭りには欠かせない太鼓は大人気



▲書道実演



▲生け花体験教室



▲人がいっぱい。フードブース・エリア



▲焼き鳥も大繁盛